



皆さま、本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。2013年最初の松前屋通信のスタートですよ♪

★マラソン大会の裏話★

11月25日、3連休の最終日に「大阪マラソン 2012」が開催されました。第2回目となる今回は3万人の定員に対して15万5,482名の応募があり、倍率5倍！の人気ぶりです。

天気は快晴。金色に輝く銀杏並木の下、颯爽と走る3万人のランナーの皆さんに、沿道で応援する観客118万人。朝の8時から夕方4時までの長時間にわたって交通規制して一日凄い賑わいとなりました。



文系女子の私などには、そもそも参加費1万円を出して42キロを走るといのは信じられないのですが、3万人が参加で、3億円。さらに申し込み時に一口200円の寄付金を何口出してくれますか？という記入欄があるようで、これの多い者順に当選者があったのか？という話もありますが、まあ、別に悪いことでもなし…。

第一回目の収支報告を見ると、このマラソン大会の運営には総額12億円！というお金が動いています。交通規制や警備費などで2億7千万、運営費も5億6千万とそれだけで参加費の倍以上の費用がかかっていることが分かります。こんなにお金がかかるのに、財政が火の車の大阪が何故…？

ここで鍵になるのが、経済波及効果。つまりマラソン大会開催 → 大勢の人の交通移動、→ 飲食・買い物 → 終了後の打ち上げ宴会をしたりとお金を落としてくれる…というわけですね。特に近畿圏以外からの参加者は3分の1の1万人と非常に多い。これが重要で、大阪のホテルはどこも満室、ついでに観光・お土産等も見込めます。

事実、昨年の経済波及効果は135億円といわれ、第2回目の今回も、それ以上の効果が期待されています。コースも考えられていて、大阪城、難波、御堂筋、中之島、通天閣などの大阪の名所をコースに入れて、マラソンをしながら大阪名所めぐりも楽しめるという観光目線の設定。明らかにきちんと仕組みられているなあという気分ですね。

東京マラソンの成功によって、「これは稼げる！」と考えた各自治体が、我も我もと参戦しており、毎週末にはどこかでマラソン大会開催というご時世です。オリンピック誘致と異なりインフラ整備が最小限で済むマラソン大会は、地方自治体にとっては金の鶏なのかもしれません。

一方で、出場するランナーの方も、『今度〇〇に走りに行く！』とちょっと旅行気分も手伝ってか、とても嬉しそうにしています。正にウィンウィンの関係がそこにあるかも…。

みんなでかける虹。

OSAKA 2012
MARATHON

